

# 【河川】「阿武隈川上流の減災に係る取組方針」を取りまとめました！

## 1. 概要

- 阿武隈川上流で発生しうる大規模な浸水被害に備え、隣接する自治体や県、国が連携して、減災のための目標を共有し、対策を推進するため、9月26日に「第2回 阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会」を開催しました。
- 今般、「逃がす・防ぐ・取り戻す」ための取組を進め、防災意識向上や被害最小化を図るため、関係機関が5ヶ年で取組むべき内容を定めた「阿武隈川上流の減災に係る取組方針」を策定しました。

## 2. 日時／実施状況

- 日 時：平成28年9月26日(月)
- 場 所：福島テルサ 3階大会議室「あぶくま」
- 出席者：伊達市(市民生活部長)、国見町(町長)、桑折町(副町長)、福島市(市長)、二本松市(生活環境課長)、大玉村(村長)、本宮市(市長)、郡山市(副市長) 須賀川市(市長)、玉川村(村長)、福島气象台(台長)、県(土木部次長・危機対策課長)、摺上川ダム(所長)、福島河川国道事務所(所長)



会場全景(福島テルサ)

### 議事内容

関係機関 約60名が参加

- ・(1)幹事会の報告
- ・(2)「阿武隈川上流の減災に係る取組方針(案)」の説明  
⇒説明後に意見交換、出席委員からご発言  
⇒異議はなく、減災に係る取組方針を策定

## 3. 主な意見・コメント等

- ・ ホットラインについても国からの情報提供だけでなく、我々から問いかける場面もあっていいと思っている。双方向の情報のやりとりが必要。
- ・ ハード整備はすぐには整備が進まないであろうことを想定して、ソフト面での対策、特に行政区・町内会単位の自主防災組織の組織化の推進に努めていく。
- ・ 住民の防災意識が高まっている中で、我々が情報提供していかん、自助・公助・共助の役割分担をしっかりしていくかが重要。
- ・ 新たなハザードマップを作成するためスピーディーに対応していく。
- ・ 今まで災害とは無縁だったが、最近はいつ災害が起きても不思議ではないため、防災無線のデジタル化に取り組んでいる。
- ・ 小学生を対象として防災・河川の関係の教育を行うことを考えており、引き続き国土省の指導もお願いしたい。
- ・ 水害を経験していない世代に対し、危機感をどうやって伝えていくかが課題。

